

園基式 私伝

會所事

采るおあ母まらんもさる入〜次で勅事の爲るに  
毎く心付たるる人信西の筆もたつ也地方措更也  
とある〜向る事

向る事

えなるも〜勅事のし入録のしり録後  
とある〜勅事のしり録のしり録  
丁斗其こと〜勅事のしり録

乞事

初番の乞事〜  
若く乞事〜  
あら〜  
乞事〜  
亦入乞事〜  
あの中乞事〜  
事は皆使の也但乞〜

乞事

先廣〜  
乞事〜

Handwritten text in cursive style, consisting of approximately 15 lines of vertical script.

Handwritten text in cursive style, consisting of approximately 15 lines of vertical script.





目算事

石成太首立入也昔昔と結らへ成入と成入と也  
 せりくいとむと成入の歌のいもとらとらむとむと  
 入る入る下知や歌のいも成入とらとらむと目算事  
 遠十日斗の揚負のいもとらとらむと成入とら  
 入る入る勝りもつむと成入のいもとらとらむと  
 成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと  
 下なるの目算事二の太切目算事とらとらむと  
 成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと  
 成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと

かろむとらとらむと成入のいもとらとらむと  
 なるなる沈の目算事とらとらむと成入のいも  
 成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと  
 成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと

劫事

成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと  
 多成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと  
 幼と成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと  
 とらとらむと成入もつむとらとらむと成入のいも  
 成入もつむとらとらむと成入のいもとらとらむと

あはれと思やまはるはく劫とさうりしと用はる事なき也

結事

半昔邊向程より結を心すかきまて結界とたつて  
歌に一首も先手と九せしと流すを業つてまてし  
すやうとらふて結界のまの地はあやうなる  
飲れら成とてさ地りあめしとむとせ  
西谷勝負結より結とせ二十日まての道とせ  
ふゆやまといつてあはれと事とせむとせり  
らあはれと事とせり

漢取事

えらうたふらとせらうてめは漢とわらう毎とよ  
くの象とせみへて歌とて度とせ毎とす毎と  
事と歌と先よりとせかおれ毎とす人なりと  
あはれとせけあて手と毎とせぬ屋とせ毎と  
等同れ歌も世末のれとあはれとせ毎と  
の迎ふはと毎とせり毎とせり毎とせり  
とせりてあはれとせり毎とせり毎とせり  
もあはれのとせり毎とせり毎とせり毎とせり  
とせり毎とせり毎とせり毎とせり毎とせり  
雑々

九流と命も命を記さおの斬新く包とじく  
 保らうじ次乃日也船町は海朝と春行の後也  
 方じとじし事ありんたと公和命は子也走の味  
 也とよこい海ありあより酒と好まじ也  
 命ととつうたへと上手ハ基局は向く我物とて  
 知成高けりいへ毎事早下ひへう寸時時勝酒  
 てとよる也いも亦快とらもの也極く送根の事  
 ありんたもい歌の命はとらとらと思切く一息  
 一息をいへる也あはれとあはれと一息の息とあはれ  
 へと初番と執へははらう其日と昔也と入も極く

後子引まるといひとすからぶ成りえぬ更あり  
 ち初乃石まう業理は打成つてハやうもを貴ん  
 能也取用とえうして次也て死の石り心を  
 是へともり我石成ちうとて歌のつと  
 打じとすねち極くあはれ事也うら換を  
 あり水送根は思へともはうとて  
 あふとゆきもとてハ知也と也取るとも歌乃石  
 とては是のあまうとてとてとてとてとて  
 又いへるもとも人のサもうとてあはれ  
 事思へるへと天性のふ記も久ありたきとも

わる格とおひかええこれ後世番と云付極る  
 越は打さむいおさうして思慮一昔と云ふり、  
 好むと云ふはサマシテ侍らかこぢりいさふ  
 悪也敵のつらふいとも強きもはつら可  
 家右様より死なもあふらうつらうは事切  
 とあぬ格はおたあうか有てもいんをさくひ  
 ち死つらさくもあははは極し敵より折る  
 本あふ人き事人あまらうつら格はあふ人  
 指く要事と云ふはをいめく業と云ふはめく業  
 事守りの一番の目に務めつら本あふともそんた

うくお死ぐお極くはあて業と云ふは敵をい  
 南くも不意さういさうはくことあふら業  
 目成をく肝とつらへつらうはははのさうり  
 上ふらうく女と云ふはあふめくあふらうのよ  
 るいり員極と云ふは成ぬとら見道じらうは  
 敵と云ふはいさひと云ふはあふらうはあふら  
 てあふらうと云ふはあふらうと云ふはあふら  
 さいおとらり業す侍敵の言ふと云ふは極  
 高きおおははははははははははははははは  
 くおらうと云ふは一定の勝と云ふは思へ業と云ふは







ように極の接へて款と爲るべくせし料也  
 款のつらうき成りありし付りたるは  
 據を歩へて款よかりしは料也尙のた  
 めを指かく不可業ありしは爲す所  
 石成し中の指少しははらばら目あり  
 歩へて縦百箇の負をたすは打よるは  
 き成しははらばら歩よるははらばら  
 さらし事外は歩へて縦百箇の負を  
 ともく據よするははらばら一日の  
 歩は頼むははらばら歩よるははらばら

ぬきかゝるははらばら歩よるははらばら  
 歩を人決一定勝しははらばら歩よるははらばら  
 記しははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら  
 なるははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら  
 一定れ負ははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら  
 是ははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら  
 料也上手ははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら  
 らははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら  
 毎ははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら  
 しははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら歩よるははらばら

山崎

七

ぬきんていし... 又歌廿...  
 此ありし... 是れ...  
 事なる... 勝負...  
 あつし... 他...  
 深... 不可...  
 昔... 借...  
 此... 故...

七番に... 何とも...  
 松... 又...  
 人... 首...  
 基... 偏...  
 乃... 上...  
 負... 成...  
 ら... 大...  
 基... 目...  
 か... 福...

老老して老の老をばはらふとて之を菴居して之  
 暮合ひ出仕おぼふも其の負荷一と欲の負合  
 りまらざる年乃の也としかば人毎に思ふより  
 すて自欲に余ある也しく其の髓髓とて  
 するりこもくこせぬるはまの能くうかふこが  
 けぬぬくくはたれも道乃故實とてわらうか  
 あり事あり能く為接へ一紙の並らぬ  
 くは其勝負の心けりある也一 兼先を以  
 口傳秘の之樂大映やけりもさふくをさふく  
 ありし事も世定の打くありき折とありはう

其計らぬも其詞も難及事れ只天性より人  
 此を乃さくは我えは番の一度もよけり  
 之基本のありし習ら製外とて心と心同く  
 去るる人きこ也正倫の成法して冥かと丁作凡  
 凡丈の極め是れ道は此もや瘖忘の料や  
 好思よ有恥勿披露云々

正治元年六月日

玄尊

碁局寸法

- 長一人四寸八分
- 廣一人四寸
- 厚六寸二分
- 木厚二寸二分
- 足二寸二分

